



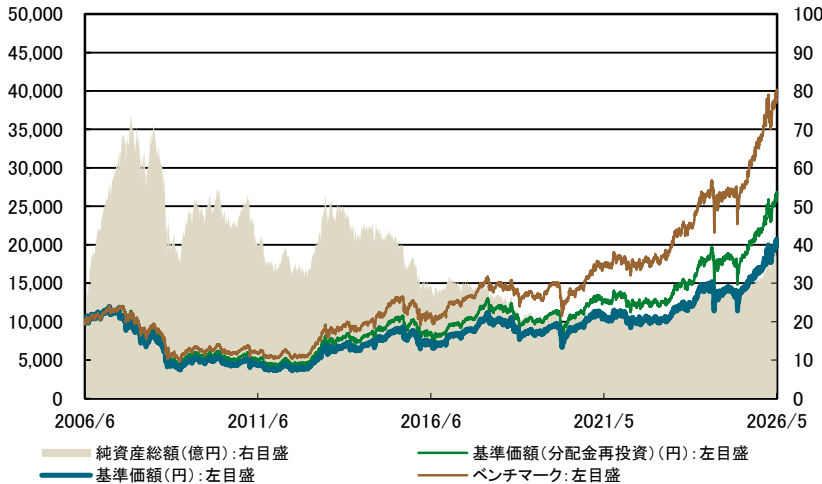
日本株式SRIファンド

追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 2006年6月12日

作成基準日 : 2026年5月29日

基準価額の推移



- ※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。
- ※ ベンチマークは、TOPIX(東証株価指数)(配当込み)です。当初設定日を10,000として指数化しています。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	20,719 円	+ 1,426 円
純資産総額	38.31 億円	+ 2.44 億円

期間別騰落率

	ファンド	ベンチマーク	差
1ヵ月	7.39%	6.24%	1.16%
3ヵ月	3.66%	1.52%	2.15%
6ヵ月	22.74%	18.54%	4.20%
1年	44.42%	44.55%	-0.13%
3年	98.76%	99.34%	-0.58%
設定来	168.91%	301.39%	-132.48%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

TOPIX(東証株価指数)とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。TOPIX(東証株価指数)(配当込み)(以下、「配当込みTOPIX」という。)の指数値及び配当込みTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など配当込みTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及び配当込みTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、配当込みTOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 2,800 円

決算期	2023年6月	2024年6月	2025年6月
分配金	200 円	700 円	0 円

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

個別銘柄が基準価額の変動に与えた影響度(月間、概算)

プラス要因銘柄	寄与額	マイナス要因銘柄	寄与額
村田製作所	+ 303 円	三菱重工業	- 115 円
ソフトバンクグループ	+ 177 円	JX金属	- 82 円
東京エレクトロン	+ 151 円	三井物産	- 57 円
イビデン	+ 145 円	エンプラス	- 50 円
THK	+ 128 円	イトーキ	- 46 円

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。



日本株式SRIファンド

追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 2006年6月12日

作成基準日 : 2026年5月29日

資産の状況

※ 当ページの数値はマザーファンドベースです。

資産内容

株式	98.11%
株式先物取引	0.00%
短期金融資産等	1.89%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

ESGスコア平均及びスコア別構成比

		ファンド	ベンチマーク
ESGスコア平均		3.69	3.51
構成比	5	0.00%	0.22%
	4以上5未満	25.56%	24.86%
	3以上4未満	72.84%	60.39%
	2以上3未満	1.60%	11.91%
	1以上2未満	0.00%	1.05%

※ 対現物株式構成比です。

※ ESGスコアとは、当社が重要と考えるESG課題（ESGマテリアリティ）を評価項目として、定量・定性の両面から総合的に評価し、1（最低）～5（最高）のスコアで表したものです。

組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	電気機器	25.68%	21.76%
2	銀行業	10.23%	10.84%
3	卸売業	8.62%	7.73%
4	機械	7.59%	6.10%
5	非鉄金属	6.37%	2.85%
6	建設業	6.05%	2.15%
7	輸送用機器	5.11%	5.30%
8	保険業	4.49%	3.21%
9	化学	4.48%	4.90%
10	情報・通信業	3.89%	6.87%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	5.69%
2	東京エレクトロン	電気機器	4.76%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	4.35%
4	三菱商事	卸売業	3.24%
5	村田製作所	電気機器	3.14%
6	トヨタ自動車	輸送用機器	3.14%
7	日立製作所	電気機器	3.08%
8	伊藤忠商事	卸売業	2.99%
9	ソフトバンクグループ	情報・通信業	2.83%
10	東京海上ホールディングス	保険業	2.77%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 66

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



日本株式SRIファンド

追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 2006年6月12日

作成基準日 : 2026年5月29日



ファンドマネージャーのコメント

【市場動向】

国内株式市場は上昇しました。月前半は、海外市場で決算内容が良好なハイテク関連株が上昇した流れを受け、国内でもAI(人工知能)・半導体関連銘柄を中心に上昇しました。米国とイランの協議進展による中東紛争の終結期待の高まりも上昇要因となりました。月後半は、長期金利の上昇を受けて株式市場の相対的な割高感が意識され、一時利益確定の売りが優勢となったものの、米国とイランが戦闘終結に合意するとの期待を背景に上昇に転じました。月末にかけては、米ハイテク企業が旺盛な投資計画を発表したことなどが好感され、一段と上昇しました。

【運用実績】

CSR(企業の社会的責任)への取り組みを通じて長期的に企業価値の向上が見込まれるSRIユニバース(投資候補)企業群の中から、中期的にも市場の想定以上の業績が見込まれ、株価の上昇が期待できると判断した銘柄に投資しています。

当月は、AI代替懸念から株価が下落したもののAI関連ビジネスの拡大やAI駆動開発の投入など恩恵を受ける要素も多い点を評価した野村総合研究所や、構造改革が進展した海外事業の成長期待に加えグローバルで近視人口が増加している中で近視矯正だけでなく予防や抑制に取り組む姿勢を評価したジズホールディングスなどを購入しました。一方で、SDGsに対する取り組みは変わらないものの、中東情勢のポジティブ影響は株価に織り込まれたと判断した大阪瓦斯や三井物産の組入比率を引き下げました。

【月間パフォーマンス】

当月末の基準価額は前月末比で上昇しました。基準価額騰落率はベンチマークを上回りました。

個別銘柄では、村田製作所やソフトバンクグループなどがプラスに寄与した一方、三菱重工業やJX金属などがマイナスに影響しました。

【市場の見通し】

中東情勢は引き続き不安定化しており、当面の株式市場は原油価格の動向や紛争終結に対する期待などを巡り一喜一憂する展開を想定します。一方、米国による経済対策が期待されること、日本企業は堅調な業績が見込めるため個別企業のファンダメンタルズに注目が集まることに加え、資本効率や収益性の改善に対する取り組みが期待できることから、堅調な相場展開になることを予想します。

【今後の運用方針】

CSRに積極的に取り組んでいるSRIユニバース企業群の中から、企業のCSRに対する取り組みが業績面の成果として現れてきた銘柄や、市場期待以上の業績の回復・伸長が見込まれる銘柄を重点的に組み入れていく基本方針に変更はありません。CSRやESGの取り組みにより、中長期的に成長が期待できる銘柄を吟味し、個別銘柄判断を行っていきます。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



日本株式SRIファンド

追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 2006年6月12日

作成基準日 : 2026年5月29日

組入上位銘柄のプロファイル(ESG評価とファンドマネージャー評価)

銘柄／ESGスコア	ESG評価のポイント
	ファンドマネージャー評価のポイント
三菱UFJフィナンシャル・グループ／3.38	<p>【ESG評価のポイント】 「世界が進むチカラになる。」をパーパス(存在意義)として、環境・社会課題解決と会社の経営戦略を一体と捉えて価値創造に取り組んでいる ・2050年までに投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量のネットゼロ、および2030年までに会社自らの温室効果ガス排出量のネットゼロ達成を目指している。 ・2030年度までにサステナブルファイナンスの取組額を100兆円、うち環境分野で50兆円の目標設定を行っている。 ・新中期経営計画(2024年度からの3年間)で、社会課題解決への貢献を経営戦略と一体化させるとともに、これを中計の3本柱の1つと位置付け、取り組みを一層強化していく方針を示した。</p> <p>【ファンドマネージャー評価のポイント】 デジタル拡張による利便性の高い金融機能の提供やアジアなど海外での金融サービス提供拡大に加え、金利上昇による利ザヤ改善や資金需要の拡大を通じた利益成長に期待。</p>
東京エレクトロン／3.85	<p>【ESG評価のポイント】 半導体技術革新を通じて社会的・経済的価値を同時創出するTSVを基盤に、ESGを事業と一体で推進。装置累計出荷9.6万台超・特許約2.5万件という強みを軸に、先端プロセス向けの新装置と高付加価値サービスで省エネ・高性能化に貢献している。環境面では、E-COMPASSにより装置ライフサイクルのCO₂削減を進め、ネットゼロ2040年の実現に向けた取り組みを強化。人材面では1.5兆円超のR&D投資と大規模なグローバル採用・育成で技術力を底上げし、ガバナンス面では経営トップや社外役員のメッセージ発信・対話を通じて意思決定の透明性を高め、中長期の企業価値向上につなげている。</p> <p>【ファンドマネージャー評価のポイント】 半導体製造の先端プロセスで求められる難易度の高い技術ニーズに応え続けることで蓄積した技術力に加え、幅広い製品ラインナップを活かした顧客への提案能力を評価。データ通信量の増大を背景とした、半導体の情報処理能力向上や省電力化ニーズに対応する半導体製造装置の受注やソリューション提供の拡大による業績成長に期待。</p>
三井住友フィナンシャルグループ／3.54	<p>【ESG評価のポイント】 「最高の信頼を通じて、お客さま・社会とともに発展するグローバルソリューションプロバイダー」というビジョンのもと、「社会的価値の創造」「経済的価値の追求」「経営基盤の格段の強化」の3つを基本方針として掲げ、世界の「幸せな成長」に貢献することを目指している ・2030年までのサステナブルファイナンス取組額目標を30兆円から50兆円に上方修正した。 ・2025年5月「気候変動に関するプログレスレポート」を公表。実体経済の脱炭素化推進に向けて注力している新エネルギー・新技術へのリスクテイク、トランジションファイナンス、ステークホルダーとの協働などを通じて最大限貢献するとともに適切な管理を継続していくことを表明。</p> <p>【ファンドマネージャー評価のポイント】 米国や新興国への投資拡大を通じた海外事業の成長や国内事業におけるデジタル化の進展による経営効率の改善、金利上昇による利ザヤ改善や資金需要の拡大を通じた利益成長に期待。</p>
三菱商事／3.25	<p>【ESG評価のポイント】 グローバルかつ幅広い事業領域での展開や多様なビジネスモデルを有し、グループ総合力を発揮することで社会課題の解決を通じて新たな価値創出を目指している ・地政学リスクに対応したサプライチェーン再構築、エネルギー安全保障の重要性の高まりを受けた脱炭素のトランジションへの対応強化など、外部環境変化に対応した柔軟な事業戦略の見直しにより実効性向上に取り組んでいる。 ・北米LNG事業でのコスト競争力を活かし、データセンター等の電力需要に応え、ブルー水素・アンモニア製造につなげることや北米電力バリューチェーン一体での収益化に向け取り組み。トランジションと再エネを組み合わせ低炭素化に向けた現実的な事業展開をしている。</p> <p>【ファンドマネージャー評価のポイント】 経営体制の変更などを受けて改革が実行されており、低採算事業の処理などを進めることで事業ポートフォリオの改善が進んでいる点を評価。天然ガスなどエネルギー分野での成長投資を通じた中長期的な利益成長や、課題事業の整理による資本効率改善を通じた企業価値向上を期待。</p>
村田製作所／3.50	<p>【ESGの評価ポイント】 ・電子部品分野におけるグローバルリーディング企業として、通信・モビリティ・環境等の幅広い顧客基盤を背景に、小型化・高性能化・高信頼性技術を核とした製品提供を通じ、デジタル化・電動化の進展や社会インフラの高度化に貢献している。 ・長期構想「Vision2030」に基づき、社会価値と経済価値の好循環を創出する経営を推進。中期方針2027では非財務資本(人的資本・技術資本等)の強化と価値創造サイクルの高度化を図り、持続的な企業価値向上に取り組んでいる点も評価される。</p> <p>【ファンドマネージャー評価のポイント】 先端MLCC(積層セラミックコンデンサ)の高いシェアと当社の技術優位性を評価。省電力化ニーズなどを背景としたMLCCの中期的な需要拡大に加え、AI(人工知能)サーバー向けMLCCの技術難易度が上がることによる当社高付加価値製品の成長と資本効率改善を期待。</p>

※ ESGスコアとは、当社が重要と考えるESG課題(ESGマテリアリティ)を評価項目として、定量・定性の両面から総合的に評価し、1(最低)～5(最高)のスコアで表したものです。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



日本株式SRIファンド

追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 2006年6月12日

作成基準日 : 2026年5月29日



【ご参考】CSR／ESGを巡る動き

<海流システムの変化による地球規模の気候変動リスク>

近年、異常気象の激甚化・頻発化など、気候変動の影響が社会問題として顕在化しています。一方で、まだ表面化していないものの、将来の環境問題を引き起こす気候変動リスクも着実に進行しています。いま、気候変動問題の専門家達が強く警鐘を鳴らしているのが、大西洋の巨大海流であるAMOC(大西洋子午面循環)の弱体化であり、地球規模の気候システムに深刻な影響を与える可能性があります。

AMOCの弱体化リスクとその影響

AMOCは、熱帯の暖流を北へ運び、深海を通じて冷たい海水を南へ戻すことで、地球全体の熱バランスを保つ大規模循環で、世界の気候システムの安定性を支える基盤です。近年、温暖化に伴う氷床融解などにより、北大西洋の塩分・密度バランスが変化し、AMOCが弱まりつつある可能性が指摘されています。

AMOCの弱体化は以前から指摘されていましたが、直近の研究は、その程度が従来想定より大きい可能性を示しています。Science Advances誌によれば、AMOCは2100年までに50%以上弱まる見通しで、気候変動モデルの平均推計値と比べ約60%大きな弱体化となります。さらに、過去20年の観測データは、AMOCの弱体化がシミュレーション上の仮説ではなく、すでに進行している現実の現象であることを裏付けています。

AMOCの弱体化は、将来的な循環の崩壊(停止)へと向かい得る過程でもあります。AMOCが大きく弱体化し崩壊に至れば、海洋が炭素吸収源から排出源へと転じ、温暖化を一段と加速させる可能性があります。こうした変化は徐々にではなく、ある閾値を超えると急激かつ不可逆的に進行するため、「ティッピングポイント(不可逆的な臨界点)」と呼ばれます。

仮にAMOCが弱体化し崩壊すれば、その影響は気温変化にとどまりません。欧州の寒冷化、モンスーンの変調、食料生産の不安定化、地域差のある海面上昇など、気候変動パターンそのものが激変します。結果として、エネルギー、農業、インフラ、保険など幅広い分野に同時多発的に影響が及び、経済全体へ波及します。すなわち、これは個別災害の延長ではなく、社会経済構造の基盤を揺るがす「システムリスク」と言えます。

金融・投資家への含意

金融の観点では、この種のシステムリスクは、市場・信用・流動性など既存の金融リスクを増減・誘発する「リスクドライバー」として位置づけられ、極めて重大です。他方、中央銀行・監督当局のネットワーク(NGFS)は、こうしたシステムリスクが中央銀行等の用いる気候・経済シナリオに十分織り込まれておらず、金融リスクが過小評価されている可能性を指摘しています。

投資家の観点では、システムリスクは分散投資では回避しきれないリスクです。このため、個別銘柄の超過リターン(アルファ)に加え、市場全体の健全性・リスク(ベータ)そのものを改善するという考え方、いわゆる「ベータアクティビズム」への関心が高まっています。こうしたリスクへの対応は、個々の投資家の取り組みだけでは不十分です。投資先企業への働きかけに加え、産業界、政策立案にかかわる関係者、そして株式市場全体に影響を及ぼす「システムレベルのステewardシップ」が求められます。当社でも「マルチエンゲージメント」と称し、個別企業のみならず、政府当局・業界団体・NGOなど、様々なステークホルダーへのエンゲージメントを通じて、こうした構造的課題への対応を進めています。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



日本株式SRIファンド

追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 2006年6月12日

作成基準日 : 2026年5月29日



ファンドの特色

1. CSR(企業の社会的責任)を積極的に果たす企業に投資します。
企業の社会的責任(CSR)を重視した投資手法により運用を行うSRI(社会的責任投資)ファンドです。
CSRとは、企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、積極的に責任を果たしていくことをいいます。企業は利益を上げること(経済的責任)に加え「環境的責任」「社会的責任」「法的責任」(ESG*)を果たすことが求められています。
* ESG:「Environment(環境)」「Social(社会)」「Governance(企業統治)」の頭文字をとったもの。
銘柄選定にあたっては、経済的責任に加えESGを投資対象選定の主要な要素としています。
株式相場の下落の可能性が高いと判断した場合には、株式への実質的な投資比率を引き下げよう努めます。
2. TOPIX(東証株価指数)(配当込み)を中長期的に上回る投資成果を目指します。
ベンチマークはTOPIX(東証株価指数)(配当込み)です。
3. 中長期にわたって安定的な成長が期待できる銘柄を選別します。
CSRを「環境的責任」「社会的責任」「法的責任」、そして「経済的責任」の4つの評価軸から多面的に評価します。
ESG評価では、持続可能性に向けた重要な課題と考える12のESG評価項目を設定し、定量評価と定性評価を組み合わせることでESGスコアを算出、セクター毎にスコアの高い銘柄を投資対象銘柄候補としています。

投資リスク

《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。
従って、**投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- **信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様へ帰属します。**
- **投資信託は預貯金と異なります。**

【株価変動リスク】

株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【信用リスク】

有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

【ESGの投資リスク】

ファンドは、ESGを投資対象選定の主要な要素としており、ESG評価が相対的に高い企業の発行する有価証券を選別して組み入れます。

ESG評価と短期的な有価証券の値動きには必ずしも関連性があるわけではありません。また、ESG評価がファンドの収益源となる場合もありますが、損失が発生する要因となる場合もあります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

《その他の留意点》

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



日本株式SRIファンド

追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 2006年6月12日

作成基準日 : 2026年5月29日

お申込みメモ

- 購入単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入価額 … 購入申込受付日の基準価額とします。
(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
- 換金単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 換金価額 … 換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額とします。
- 換金代金 … 原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
- 申込締切時間 … 原則として、販売会社の営業日の午後3時半までにお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 換金制限 … ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金申込受付の中止及び取消し … 取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。
- 信託期間 … 無期限(2006年6月12日設定)
- 繰上償還 … 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。
 - ・受益権の口数が5億口を下回ることとなった場合
 - ・ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合
 - ・やむを得ない事情が発生した場合
- 決算日 … 毎年6月9日(休業日の場合は翌営業日)です。
- 収益分配 … 年1回、毎決算時に原則として収益分配を行う方針です。
- 課税関係 … 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。
ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
なお、配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

《投資者が直接的に負担する費用》

- 購入時手数料
購入申込受付日の基準価額に**3.3%(税抜3.0%)を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
換金申込受付日の基準価額に**0.3%**の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

- 運用管理費用(信託報酬)
運用管理費用(信託報酬)の総額は、以下の通りです。
純資産総額に対して**年率1.54%(税抜1.4%)**を乗じて得た額
 - その他の費用・手数料
有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用等をその都度、監査費用等を日々、ファンドが負担します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。
- ※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。
- ※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「お申込みメモ」、「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



日本株式SRIファンド

追加型投信／国内／株式

当初設定日 : 2006年6月12日

作成基準日 : 2026年5月29日

販売会社



[登録金融機関(販売取扱会社)]
株式会社ゆうちょ銀行
関東財務局長(登金)第611号
[加入協会]日本証券業協会



[金融商品仲介業者]
日本郵便株式会社
関東財務局長(金仲)第325号

※ 当ファンドはインターネット専用商品です。ゆうちょ銀行・郵便局(投資信託取扱局)の店頭では、販売・購入に係るお取り扱いを行っておりません。

委託会社・その他の関係法人の概要



- 委託会社 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
(ファンドの運用の指図を行う者)
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号
加入協会 : 一般社団法人資産運用業協会
ホームページ : <https://www.smtam.jp/>
フリーダイヤル : 0120-668001
受付時間 9:00~17:00 [土日・祝日等は除く]
- 受託会社 : 三井住友信託銀行株式会社
(ファンドの財産の保管及び管理を行う者)



SMTAM投信関連情報サービス

お客様が指定されたファンドに関する情報(基準価額、レポート)や投資に関するコラム等をLINEでお知らせします。

※LINEご利用設定は、お客様のご判断をお願いします。※サービスのご利用にあたっては、あらかじめ「SMTAM投信関連情報サービス利用規約」をご確認ください。

■ 投資信託に関する注意事項

◆ **投資信託は、預金・貯金ではありません。また、投資信託は、元本および利回りの保証がない商品です。**

◆ 当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

◆ 投資信託の申し込みにあたっては、リスクや手数料等を含む商品内容が記載された重要情報シートならびに投資信託説明書(交付目論見書)および一体となっている目論見書補完書面の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

◆ ゆうちょ銀行各店または投資信託取扱局の窓口での申し込みに際しては、重要情報シートならびに投資信託説明書(交付目論見書)および一体となっている目論見書補完書面を、書面交付または電子交付しております。インターネットでの申し込みに際しては、投資信託説明書(交付目論見書)および一体となっている目論見書補完書面を電子交付しております。

◆ 日本郵便株式会社は、株式会社ゆうちょ銀行から委託を受けて、投資信託の申し込みの媒介(金融商品仲介行為)を行います。日本郵便株式会社は金融商品仲介行為に関して、株式会社ゆうちょ銀行の代理権を有していないとともに、お客さまから金銭もしくは有価証券をお預かりしません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。